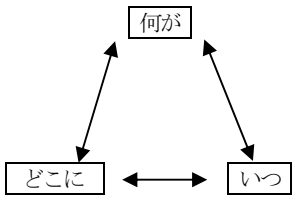


地理学における調査の基本（地理学の8段階）

地理学の8段階	調査内容と調査手順
<p>1 何が 「何が」(事象) を指定すれば系統 地理学へ</p>	<p>何があるか・何を見たか → 何を調べるか → 事象 (広義の指標) を決める 単一事象から複合事象 → 総合事象へ</p> <p>〔直接目で〕 (1)直観を大切に (4)景観的調査から (目に見え) 見える (2)自分自身で見る→考える (4)簡単な聞き取りから (目に見え) ないもの (3)何かを見る努力をする (4)既存のデータから (目に見え) まで (4)同行者と議論してみる (4)過去の文献から</p>
<p>2 どこに 「どこに」を指定 すれば地誌学へ</p>	<p>その事象はどこにある (あった) のか・どんな所にある (あった) のか</p> <p>事象の存在する場所が限定されないと地域事象にならない。 単なる事象では地理学の研究対象にならない。</p> <p>地域をどのように設定したら良いか。 → 地域のとり方によって、共通性が個別性になり、個別性が共通性になる。</p> <p>場所は 〔点的見方〕 〔絶対的位置〕 〔広域的→部分地域→全体地域〕 〔線の見方〕 〔相対的位置〕 〔縮域的→全体地域→部分地域〕 〔面的見方〕</p>
<p>3 いつ 時間の限定</p>	<p>その事象はいつからあるのか・いつ消えたか・いつ消えそうか 現在時点を中心に過去にさかのぼる・未来へ発展する</p>
<p>4 なぜか 地域事象の再認識 と立地の理由 の暗中模索</p>	<p>1 その地域事象が、ここに、現在 (何年前から) あるのはなぜか 2 こんな場所に、こんな地域事象が、現在 (何年前から) あるのはなぜか 立地の理由 → こうではないか・ああではないか → 考えられるだけ考える</p> <p>その時、自分の考えを助けるため簡単な聞き取りを数回 (聞く人を変え、場所を変え) やってみる。 試行錯誤をする。</p>
<p>5 こうだろう 仮説の設定</p>	<p>例1) 飛騨高山も市役所の前に「大塙間病舎」という看板を見た。その看板から「高山の古さ」という仮説を引き出した。→発想法</p> <p>例2) 昭和45年6月1日現在全国3364市区町村について、小売業商店数を人口との関係 (2元1次回帰残差による地図化) で地域事象の認識をする。そこから、①独立地方都市の設定 ②大都市都市圏の設定など</p> <p>1 仮説は数個であっても良い、単一仮説から複数仮説の設定 2 具体的仮説から抽象的仮説まで いずれも地域的な仮説でなければならない 自分や他人が設定した仮説は真実であろうか。仮説を確かめる調査をする。</p>
<p>6 ほんとうか 検証的調査</p>	<p>1 聞き取り調査によって確かめる。(無作為抽出・有意抽出) 2 実地調査によって他地域と比較しながら確かめる。 3 既存の資料からデータを求め、他地域と比較しながら確かめる。 4 調査対象地域の既存の資料を収集して確かめる。 5 調査対象地域で調査表作成し、調査して確かめる。 6 過去の関連文献と比較しながら確かめる。 7 その他 その際、文学的表現による方法、統計的表現による方法いずれも導入する。</p>
<p>7 何がいえるか 地域空間の理論</p>	<p>地域空間における理論を把握する</p> <p>1 その地域事象のある地域において、設定した仮説の真実を通じて 2 ある地域に存在するいろいろな地域事象から設定した仮説の真実を通じて (1)地域空間の秩序 (2)地域空間の構造 この2点において、(a)共通性→一般性(b)個別性→特異性 を探求する。 要するに、地域事象を通じて地理学の本質をつかむ。地理学の本質を通じて、地域事象の得意をつかむ。</p>
<p>8 問題があるか 地域に関する諸 問題への対応</p>	<p>ある地域における地域事象から地理学の本質を明らかにしたならば</p> <p>1 その地域事象はその地域においてどんな問題があるか。 2 その地域にはどんな地域事象に現在、どんな問題があるか。 そして、諸問題はそれらの地域にとって、プラスの問題があるか、マイナスの問題なのか、地理学の本質を基にして、現実の地域の諸問題を考える。そこから、現実の地域に関する諸問題に対策案が作成される。</p>

地理学の体系	備考
<p>地域事象論 (地理学の研究対象の認識) (1)文章化 (2)数字化 (3)地図化 (分布図作成) (4)スケッチ化 (5)写真化 (6)模型化 (7)グラフ化 (8)その他 地域事象の再現は地理学の宿命</p> <p>地域事象の三大要素</p>  <p>いずれからスタートしてもよいが 三要素は分離できない一体的なもの</p>	<p>(1) 1からスタートするときはその地域事象が存在しない場所まで調べる →事象を指定して、同時に場所を指定してはいけない</p> <p>(2) 2からスタートするときは指定した場所(地域)内に存在するすべての事象を調べる →場所(地域)を指定した後、特定の事象のみを調べてはいけない。</p> <p>「いつから」といった、時間を考える。同時に各地域事象それ自体の特性を明らかにする。</p> <p>(1) 最小地域 → 基域 (2) 地域事象と基域との関係 (3) 時間の変化と地域事象の特性 (4) 時間の変化と基域の変動</p> <p style="text-align: right;">} 三要素の 関係</p> <p>(1) どの地域事象が地理学の本質のどこに (2) 地理学のどの本質はどんな地域事象で探究できるか</p>
<p>地理学方法論 (地理学独自の研究方法の確立)</p> <p>1 準備的・予備的調査 (1) 地域事象の認識から考察 (2) 地図上で考察 (3) 実地調査で考察 (4) 論文・文献などで考察 (5) 簡単な聞き取りをして考察 (6) その他 思考方法としては帰納法のみでなく、演繹法、そして、創造性を開発する発想法も活用する</p> <p>2 本調査 準備的・予備的調査をへて、本調査へと発展させる。 人文・自然の総合的有機体として把握する方法 →これを仮に第2の科学的方法とし、その確立に努力する。</p>	<p>(1) どんな幼稚な考えから出発した仮説であってもよい。 (2) どんなに主観的であってもよい。 自分自身が考えた仮説を第1番目に設定する。 自分で仮説をつくる努力をしなければならない。 (3) 最初から県庁、市役所、組合などを訪ねることは避ける。 自分の仮説ができぬときは(問題意識も含む)特に訪問はさけた方がよい。</p> <p>(1) ここでは絶対に主観を導入しないようにする。 (2) できる限り客観的になる努力をする。 (3) もし仮設が否定されても、少しもなげくことはしない。仮設を否定されたことに大いなる価値がある。 (4) 否定されたらその理由を追及して、新しい仮設を考える。</p>
<p>地理学本質論 (地理学の理論) 地理学の諸分野とその体系は、固定的なものとしなくて常に地域の変容を把握し、他学問分野と共に発展するもの。</p>	<p>(1) 個別性だけでなく、共通性が存在することを忘れてはならない。 (2) 地域空間の法則は部分地域・全体地域との関係に注意する。 (3) また、時間の経過で法則性が存在することを考える。</p>
<p>応用地理学 (地域諸問題解決への地理学理論の応用・活用)</p>	<p>(1) 地理学は単なる現状分析にとどまらず、将来予測ができなければならない。 (2) 地域の諸問題の論議は、必ず地理学本質を通じて行うことが大切である。 (3) 思考過程1から7までの段階をへること</p>

(二宮書店「Field Note」 稲永幸男による)